

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	9	嶺北	高等学校	課程	全
------	---	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する。
	吉野川流域の豊かな自然資源を生かした教育活動の実践により、主体性や協働する力を育み、持続可能な社会の実現に向けて地域社会に貢献する人材を育成する。		
スクールのポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○学び続ける姿勢・態度と向上心を持って、様々なことに挑戦する生徒を求めています。 ○部活動や生徒会活動、学校行事等に積極的に取り組む生徒を求めています。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○全ての教科・科目等の学習を通じて、「知識・技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力」を育成します。 ○興味、関心、進路希望に応じて、2年次より2コース・4プログラムから1つを選択し、各プログラム特有の学習活動を通じて、多様な学びや進路実現を支援します。 ○「嶺北探究」(総合的な探究の時間)を通して、主体的に他者と協働して課題解決に取り組む教育プログラムを構築し、活用応用力、地域課題解決力、言語運用力を育成します。	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○3つの精神(資質)を育成します。 (主体性の精神)自ら考え、判断し、行動できる生徒 (地域創造の精神)持続可能な地域や社会を創造する精神を持っている生徒 (多文化協働の精神)文化の多様性を尊重し、他者と協働できる生徒 ○3つの力(能力)を育成します。 (活用応用力)教科学習で学んだ知識・技能を統合的・複合的に活用・応用する力 (地域課題解決力)地域が抱える課題を解決するための現状分析や調査、実験等を通じて、答えを導き出すことができる力 (言語運用力)他者と円滑にコミュニケーションを図ることができる力

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
第2回学力定着把握検査は、C層以上が69.8%(+14.8)、D3層が12.7%(-12.9)と目標をクリアし大きく改善をしている。「自主学習の仕方が理解できている」生徒は3年生は目標をクリア、2年生で改善(+2.4)、1年生で大きく減少している(-21.2)。「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」生徒は、3年生は目標をクリア、2年生で改善(+12.2)、1年生でやや減少している(-7.6)。ただし、1、2年生共に80%以上で割合としては高い数値である。自主的、主体的に学習に取り組む意識が1年生で低下しているように見えるが、全体として学力の底上げは見られる。また、学年が進むにつれて、自分の将来像や進路が見えてくることにより、そうした意識も高まっていくものと思えることから、B評価とする。	
【社会性の育成】	評価 【 C 】
「物事に取り組む際には、いつまでに何をするかを具体的に決めて実行できる」生徒は、3年生で目標をクリアしている。(91.3%)「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行っている」生徒は、3年生で目標をクリアしていないが数値的には高い(87.0%)。「1年次末時点で進路希望を持っている」生徒は、4月末より10.8%減少し、54.8%となっている。進路決定率は78.3%で未定が5名であるが、今後発表があり、それぞれの進路が定まってくるものと思われる。今後の進路指導において1年生に課題が見られるため、丁寧な指導をお願いして、C評価とする。	
【チーム学校】	評価 【 A 】
学校の振興においては、令和8年度入学希望者が35名と学校が適正人数としている、全校生徒数100名の1学年数を満たしており、語学留学への参加者や生徒会活動も積極的にされていることからA評価とした。不祥事防止においては、1件の不祥事が発生しているが対応もされており、その後の研修も積極的に行われていることからB評価とした。働き方改革は、部活動指導等において達成が困難な要素があるが、外部人材の活用やいほく未来創造協議会との連携も積極的にされていることからB評価とした。全体としては、チーム学校としてそれぞれの項目において協力回結して取り組まれており、A評価が妥当である。	

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】		年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
					中間評価【C】	年度末評価【C】			
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○学力把握定着検査(1・2年) ・C層以上の生徒の増加(2回目:65%以上) ・D3層の生徒の減少(15%以下) ○授業外学習時間の増加 ・県ア「自主学習の仕方が理解できている」の肯定的回答:70%以上 (R6 2回目:1年65.8% 2年68.0% 3年89.4%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県ア「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答:90%以上 (R6 2回目:1年78.1% 2年84.0% 3年97.4%)	○個別最適な学習指導 ・下位層に向けた個別指導、補習や添削 ・ICTを活用した問題演習や家庭学習 ・個々の特性に応じた授業実践、評価基準や評価方法の設定 ・模擬試験や英検などの受験推奨 ・面談を通して早期の希望進路決定による家庭学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る。定期考査や小テスト等の分析及びフィードバックを定期的に行うとともに、生徒個々の学習状況や学習方略の改善を促す。	C	○第1回学力定着把握検査(1・2年) ・C層以上:55.0%(1年64.4%,2年47.5%) ・D3層:22.5%(1年12.9%,2年30.0%) ○授業外学習時間 県ア「自主学習の仕方が理解できている」の肯定的回答:62.5% (1年62.6%,2年:63.5%,3年:60.8%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県ア「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答:82.3% (1年90.7%,2年75.6%,3年91.3%)	・授業改善プロジェクトを活用した公開授業等による授業改善 ・日常的な補習や添削等の個別指導の継続により学力の伸長及び底上げを図る ・授業外学習につながるICTを効果的に活用した授業や探究活動の実践	B	○学力向上の取組 ・授業改善プロジェクトチームを中心とした授業改善の取組の推進 ⇒公開授業やチーム会を通して多様な生徒の学力に応じた効果的な授業の研究 ・授業外学習時間の確保 ・自主学習の仕方が理解～(第1回比) 1年41.4%(-21.2) 2年65.9%(+2.4) 3年82.6%(+21.8) ○「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」生徒の割合 ・1年82.7%(-7.6)2年87.8%(+12.2)3年91.3%(±0.0)	○学力向上の取組 ・授業改善プロジェクトチームを中心とした授業改善の取組の推進 ⇒公開授業やチーム会を通して多様な生徒の学力に応じた効果的な授業の研究 ・授業外学習時間の確保 ⇒教材に限らず生徒が放課後や家庭で自らの目標に向け主体的に取り組むための課題設定
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む) ○主体性の育成	○県ア「物事に取り組む際には、いつまでに何をするかを具体的に決めて実行できる」の肯定的回答:90%以上(高3次) (R6 2回目:1年78.1% 2年92.0% 3年92.1%) ○県ア「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行っている」:90%以上(高3次) (R6 2回目:1年63.4% 2年84.0% 3年89.5%) ○1年次末時点で進路希望を持っている生徒の割合:70% (R6:73.2%) ○卒業時進路決定率:100%(R6:100%)	○タブレットやスケジュール帳を用いた自己管理指導(正・副ホーム担任) ・家庭学習や読書の記録 ・学校行事や活動の予定管理 ○進路指導の充実(進路指導部、ホーム担任) ・個別指導におけるキャリアパスポートの活用促進 ・個人面談の実施(各クラス) ・全教員による面接指導 ・進路講演や大学・企業等訪問 ・インターシップの実施	B	○県ア「物事に取り組む際には、いつまでに何をするかを具体的に決めて実行できる」の肯定的回答:82.6%(高3) ○県ア「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行っている」:86.9%(高3) ○1年次末時点で進路希望を持っている生徒の割合:65.6%(4月)	・地域イベント等への生徒の参画(企画・運営・ボランティア等) ・3年生の進路実現に向けた学校と公営塾が協働した進路指導の実施 ・進路補習の見直しによる生徒の希望進路に応じたコース選択の実施(面談・説明等)	C	○県ア「物事に取り組む際には～」 ・3年 91.3%(+8.7) ○「地域や社会をよくするために～」 ・3年87.0%(+0.1) ○1年次末時点で進路希望を持っている割合 ・54.8%(-10.8) ○3年生の進路決定率 ・95.7%(3月9日時点) (国立5,私立3,専修7,就職5,その他2・未定1)
取組項目	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○マイプロジェクトへの参加 ・地域サミット:2年生全グループ ・全国大会:1チーム ○嶺北高校地域協働コンソーシアム開催:1回 ○ファイナルレポートに向けた取組 ・学年発表会の実施:全学年 ・ファイナルレポートの開催:全学年 ○県ア「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えること」がある:肯定的回答80%	○嶺北探究の3学年を通した系統的なプログラムの活動の実施 ・嶺北探究の推進(総務連携部) ・地域学校協働活動推進員との連携 ・嶺北高校地域協働コンソーシアムとの連携 ・地域自治体、未来創造協議会等との連携 ・地域イベント等への運営・ボランティア	B	○マイプロジェクトへの参加(2学期) ○嶺北高校地域協働コンソーシアム開催:1回(7/11) ・2年探究チームによる中間発表(全グループ) ○ファイナルレポートに向けた取組 ・学年発表会の実施:2学期予定 ・ファイナルレポートの開催:R8.1.21予定 ○県ア「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えること」がある:肯定的回答75.0%	・ファイナルレポートを意図した探究活動 ・地域関係者との継続的な連携・協働 ・学年発表会の実施による自己・他者評価 ・マイプロジェクトへの参加(2年全グループ)	B	○嶺北探究の見直し ・コンソーシアムとの効果的な連携 ⇒年間1回の連携会議を含め、日常的な生徒の探究活動への参画 ・ファイナルレポートを核とした地域との連携強化 ⇒連携中学校及び地域内の中学校への参加呼びかけ ○県ア「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えること」がある:肯定的回答76.6%	○嶺北探究の見直し ・年間を通じたPDCAサイクルの確立 ⇒計画・企画立案・関係機関との協議 ⇒レビュー・修正 ⇒校内販売・見直し ⇒商品化 ⇒広報 ⇒販売 ⇒成果発表・振り返り
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基礎となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各授業における「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」「意欲・態度」の3観点を意識した授業づくり ○学習成果発表会の実施(各学年) ・探究活動発表会(各学年1回) ・ファイナルレポートの開催(全学年) ○農業、商業における商品開発・販売(年間) ・栽培から商品開発、販売までの協働活動(担当者会→検討→試作→アンケート調査→改善→校内販売→商品化→校外販売→成果発表)	○教科横断的な授業 ・複数の教科の知識を関連付けて理解する能力の育成 ・異なる視点から問題を捉える能力の育成 ・論理的に思考する能力の育成 ・自分の考えを明確に表現する能力の育成 ・主体的に学習に取り組む態度の育成 ・探究学習・ポートフォリオ・グループワーク	B	・ファイナルレポートに向けた授業や探究を通じた課題解決学習の取組 ・農業×商業コースの他教科と連携した商品開発から販売まで取組(9月から1月)	B	○A×C(商・農)による商品開発 ・農商と家庭科、数学科との連携 ⇒嶺高祭(6月)及び地域イベントでの販売(12/21) ○生徒会選挙に係る教科横断 ・地公×数学×特別活動 ⇒選挙制度と投票制度の検討	○A×Cの取組のさらなる推進 ・年間を通じたPDCAサイクルの確立 ⇒計画・企画立案・関係機関との協議 ⇒レビュー・修正 ⇒校内販売・見直し ⇒商品化 ⇒広報 ⇒販売 ⇒成果発表・振り返り

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】		年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
					中間評価【C】	年度末評価【C】			
学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○いほく未来創造協議会と連携した嶺北高校魅力化アクションプランの推進 ○地域内外の中学校に向けた嶺北高校の魅力化発信 ○中高一貫教育のさらなる推進	○連携中学校からの志願者数:70%以上 (R6:39.5% R5:64.5% R4:52%) ・地域内の学校訪問回数:10回以上 ○連携中学校以外からの志願者数:10名以上 (R6:16名(県内4,県外12)) ・探究キャンプや地域ツアー等の実施:年2回以上 ・高校説明会への参加:3回以上(地域みらい留学・こうち留学) ○語学留学への参加:6名以上(R6:6名 R5:8名) ○中高一貫連携教育の推進(嶺北中学校、土佐町中学校) ○生徒会活動(特別活動)の推進 ・校則等の見直し(年1回) ・生徒会役員選挙会長立候補者数(3名以上)	○広報活動の強化(管理職) ・SNSを活用した情報発信(すくーる、FB等) ・県内外での広報活動や学校説明会の実施 ○海外語学研修の推進 ・自治体からの補助を活用した語学研修への参加促進 ○いほく未来創造協議会との連携 ・公設塾と連携(進学補習、進路指導) ・ペーパーレス教育連携の推進 ・交流授業、公開授業等による授業改善や情報共有 ・中高連携部活動(吹奏楽)と地域移行(カヌー)の推進 ○生徒会活動の推進 ・生徒会役員選挙会長立候補者数(3名以上)	B	○連携中学校からの志願者数 ・嶺北地域からの体験入学参加者数:37名 ・地域内中学校訪問回数:80回以上(魅力化C) ○連携中学校以外からの志願者数 ・地域外からの体験入学参加者数:14名 ・探究キャンプ・ツアーの実施:2回(8/19～21,9/26～27) ・高校説明会への参加:5回 (6/21・22/20,7/21,8/3,8/23・24) ○夏期語学留学への参加者数:7名 ○生徒会活動(特別活動)の推進 ・ホーム討議及び生徒総会の実施(各1回) ・生徒会役員選挙会長立候補者数:3名	・広報活動による学校の取組の周知(すくーる、Facebook,instagram等) ・海外語学研修後の継続したオンライン英会話の実施(受講者:11名) ・冬期海外語学研修の実施(冬休み) ・継続した中学校への学校訪問(魅力化C) ・オンライン説明会や学校見学の実施(公営塾) ・生徒会を中心とした校則等の見直し(ホーム委員長会、見直し検討委員会、生徒総会、職員会)	A	○生徒会活動(特別活動)を通じた学校の特色の発信 ・生徒会活動のさらなる推進 ⇒行事検討や校則等の見直し等、生徒の意見が反映される学校運営 ・連携中学校との合同生徒会 ⇒嶺北4町村からの志願及び入学の確保 ○R8地域高2留学生の受入(2名) ・志願者4名のうち2名を受入れ決定 ○語学研修参加者:10名(8月・12月) (オーストラリア、ニュージーランド、カタ、シンガポール) ○生徒会活動(特別活動)の推進 ・新たな選挙制度の確立(ボルダール) ⇒中教審WGへの参加(文科省)	○生徒会活動(特別活動)を通じた学校の特色の発信 ・生徒会活動のさらなる推進 ⇒行事検討や校則等の見直し等、生徒の意見が反映される学校運営 ・連携中学校との合同生徒会 ⇒嶺北4町村からの志願及び入学の確保 ○R8地域高2留学生の受入(2名) ・志願者4名のうち2名を受入れ決定 ○語学研修参加者:10名(8月・12月) (オーストラリア、ニュージーランド、カタ、シンガポール) ○生徒会活動(特別活動)の推進 ・新たな選挙制度の確立(ボルダール) ⇒中教審WGへの参加(文科省)
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○不祥事が起こらない学校づくり(年間不祥事発生件数:0) ・不祥事防止委員会の開催(1回/学期) ・校内研修の実施(1回/学期) ・教職員面談(2回以上/年間)	○職員朝礼、職員会等による注意喚起 ○学期1回程度の校内研修、不祥事防止委員会の実施 ○日頃から教職員とのコミュニケーションを通じた風通しの良い職場づくり ○不祥事根絶のための校内ルールの策定	A	○職員間の日常的な声かけ ・管理職による不祥事防止の意識づけ ・継続した風通しのよい職場づくり ・不祥事防止委員会の開催(各学期) ・校内研修の実施(各学期)	B	○不祥事発生件数:1件(模試結果誤配付) ⇒教委と連携した生徒・保護者への対応 ・不祥事防止委員会の開催:3回 ・校内研修の実施:5回 ・教職員面談:2回 ・国や県からの通知文等の周知(随時)	○職員会等による注意喚起 ⇒教委と連携した生徒・保護者への対応 ○校内研修、不祥事防止委員会 ○日頃から教職員とのコミュニケーションを通じた風通しの良い職場づくり ○ガイドラインの徹底
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○ワークライフバランスを意識した働き方改革の徹底 ○地域資源を生かした業務改善の推進	○勤務時間外の業務量 ・月45時間未満:100% ・年360時間未満:100% ○嶺北高校魅力化アクションプランの推進によるいほく未来創造協議会との連携体制の構築	○分業業務等の見直し ・全教員での輪番(給食、面接指導等) ・複数教員の配置(部活動等) ・ICTを活用した情報共有(グループウェア) ・ペーパーレスの推進(職員会、電子決裁) ・地域学校協働活動推進員や部活動指導員の効果的な活用(探究活動、バレーボール) ・公営塾との連携(進学補習等)	B	○勤務時間外の業務量 ・月45時間未満:95.2%(R7.4月～7月) ○嶺北高校魅力化アクションプランの推進によるいほく未来創造協議会との連携体制の構築 ・部活動指導員の配置(女子バレーボール) ・公営塾から補習への講師派遣(英・数・国) ・地域学校協働活動推進員の配置:3名	・生徒指導や進路指導における業務分担(全教員) ・進路指導における公営塾との連携 ・高校魅力化コーディネーターとみらい創造協議会と連携した探究活動や広報活動の推進	B	○勤務時間外の業務量(2月末時点) ・月45時間未満達成率:97.8%(未達成者のべ5人) ○外部人材の活用 ・部活動指導員(女子バレー)による顧問の業務負担軽減率:100% ○いほく未来創造協議会との連携 ・公営塾講師による進学補習(英数) ・嶺北探究における企画・運営(推進員) ・進路指導の連携(面談・教科指導)